

森 あやこ

ニュース

Ayako Mori



発行：福岡市議会議員 森あやこ



No.39 2025年 秋号

ウラ面の記事：  食はいのちをつなぐもの  議場見学会報告



舞鶴公園と福岡城址の自然環境と 歴史文化遺産の保全について

3月 総会質疑

生物多様性の損失

樹木は地中に二酸化炭素を戻し、
きれいな酸素を供給する

大きな木は土からの水と空気
の循環機能を果たしている

石垣への除草剤使用で、
シダやコケ類、虫たちが減っている
チョウの種類が半減

セントラルパーク構想推進事業2億7,174万円

福岡城「春の天守閣」ライトアップ事業仮設工作物撤去費1,936万（2025年度予算）

- ・ 市民・県民の憩いの場として、また、歴史・芸術文化、観光の発信拠点となる公園づくり
- ・ 福岡城天守閣調査：測量、発掘調査、石垣調査、地盤の圧密度調査（猛暑の中での調査）

舗装道路化は環境の
温度上昇を促進

石垣の解体や櫓の復元
整備の場所の樹木撤去

史跡等の保全
価値や歴史的事実を正しく伝えることが重要

※教授や市民団体の方々の想いや意見など、共に活動しながら伺ってます。

いのちある地球にとって、人類全体で取り組むべき喫緊の課題 “解決は一つ一つの施策から”

2016年から5年間で舞鶴公園の樹木100本近く伐採されていた！

緑が温存されてきた舞鶴公園の、樹木、草花、生き物などの生物多様性を無視してはいけません。実のなる大きな樹木を伐採することは、虫、鳥、小動物にとっての棲みかや餌など全般において影響が及んでいる。生き物のいのちの問題としてとらえる必要あり！

その後も伐採や強剪定が
されています 😞

舞鶴公園での温度調査：石の橋 **50℃**、芝生 **40℃**、木陰 **30℃**。
人工被覆域に木陰を増やし、樹冠被覆率を上げることは、とても重要。

地球沸騰時代

舞鶴公園の
自然と歴史を
守ってほしい

樹冠被覆率（土地の面積に対して樹木の枝や葉が茂る樹冠が占める割合＝2020年OECD各国首都の都市部における緑地率）

東京23区7.3%、東京全体21%。パリ49%、ロンドン57%、ローマ41%、ソウル35%
福岡市の緑被率：全域55.4%、都心部は10.9% ※福岡市は、樹冠被覆率を出していない



天守閣のライトアップ事業に関しては、復元建物調査前に行ったことに対して現存する石垣等への影響を懸念し、正しい保存を求めました。

「ワーキンググループの取りまとめ」：歴史的建造物の修復において「推測による修復を行ってほしくない」と定める「ベニス憲章第9条」の引用や、再現の検討に先立って、遺構への影響について検証しておくことが必要である。と「適切な再現といえない再現について」に示されている。



3月総会質疑後半の2問目には「原発事故災害の備えについて」質疑を行っています。↑